

## 第2テーマ「地域の特性やライフステージに応じた多様な地域コミュニティの活性化策」

※下表中の「○」は前回部会で出された意見, 「□」はPTAや市政協代表者会議のワークショップ等での意見

	現状	理想	実現のために必要なこと
<b>1 地域団体の 活性化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町内会や各種団体などでは、役員を掛け持ちしていることが多い。</li> <li>○ 地域の団体が活性化することで、地域コミュニティの活性化につながる。</li> <li>□ 学校を中心に、地域の各種団体が協力している。(PTA)</li> <li>□ 高齢化、自営業者の減少、若い世代の意識変化により、各種団体に参加する人が減っている。(市政協)</li> <li>□ 女性会・すこやかクラブ・社協の協働により、事業が活発化している。(市政協)</li> <li>□ 地元商店街と連携して加入メリットの提供に取り組んでいる。(市政協)</li> </ul>	<p>自治会・町内会をはじめ、地域の様々な団体が連携し、それぞれが補完し合いながら、協働した取組を行っている。</p>	<p><b>&lt;地域団体間の連携を強化する&gt;</b></p> <p>地域団体が抱える課題の解決に向けて、地域団体間で情報を共有し、連携や相互補完が進むよう、方策を検討する。</p>
<b>2 担い手育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町内会を脱会する単身高齢者が増え、若い世代は町内会に入会しつづけない。町内会の担い手づくりは大きな課題である。</li> <li>○ 65歳で定年退職した男性が地域の担い手になるようなマーケティングを考えてはどうか。</li> <li>□ 高齢化の増加により、地域活動ができない人が増え、地蔵盆等の世話役がない。(市政協)</li> <li>□ 町内会長が輪番制で、防災等の活動を含め、地域に浸透させることが難しい。(市政協)</li> <li>□ 消滅、休会する町内会がある。(市政協)</li> <li>□ 高齢の一人暮らし等が多く、役を担える人が少ない。(H30自治会・町内会アンケート)</li> </ul>	<p>定年退職された方をはじめ、様々な年代の方が地域活動へ参加し、それぞれの経験や能力を地域活動に活かしている。</p>	<p><b>&lt;参加のきっかけづくりを支援する&gt;</b></p> <p>高齢者や若者など様々な年代の方々が、地域の担い手として活躍いただけるよう、ライフステージに応じた地域活動への参加のきっかけづくりを支援する。</p>
<b>3 行政の サポート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以前に比べれば、行政の方は地域に入ってきていると思うが、地域とマンションをつなぐためのサポートを行うなど、より踏み込んだことができれば更に良くなる。</li> <li>□ 行政からの助成制度があるが、できるだけ継続的なバックアップがあればよい。(市政協)</li> <li>□ 自治連として、町内会長への啓発、支援を行いたい。(市政協)</li> <li>□ 学区や町内会同士など、情報共有をすすめるためのサポートがあればよい。(市政協)</li> </ul>	<p>地域コミュニティが地域に応じた身近な課題の解決に向けて主体的に取り組んでおり、それらの取組を行政がサポートする体制が整っている。</p>	<p><b>&lt;自主的に活動する地域へのサポート&gt;</b></p> <p>地域におけるつながりづくりや円滑な組織運営のために行う取組に対して、まちづくりの専門家であるまちづくりアドバイザーによる地域に応じたきめ細やかな支援をはじめ、行政によるサポートを充実させる。</p>
<b>4 居場所 づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の中で意見を出し合う場や考える場が少ない。</li> <li>○ 地域住民の求める活動が、地域の中で身近に学べて、気軽に参加しやすい居場所づくりが更に進めば、地域の活性化につながる。</li> <li>□ 世代を超えた対話の場が少ない。(PTA)</li> <li>□ 住みやすい地域を実現していくうえで必要なこと、「気軽に相談できる場所や窓口」が2割近くで最多。(H29市政総合アンケート)</li> </ul>	<p>地域住民が気軽に参加できる居場所があり、顔の見える関係の大切さが見直されている。</p>	<p><b>&lt;気軽に参加しやすい居場所づくりを進める&gt;</b></p> <p>地域住民が気軽に参加しやすい場所の提供や対話の場づくりなど、住み良い地域を実現するための居場所づくりを進める。</p>

	誰に向けて	どういった取組が必要か	京都市の施策(案)
<b>活動の例</b>	地域団体の役員	他の地域団体で実施している先進的な取組を、自分たちの地域団体でも参考にできるよう、情報共有の仕組みづくりを行う。	地域におけるまちづくりヒント集やお困りごとQA集等の制作
	地域の高齢者	定年退職した後のいきがいとして、地域活動への参加の意欲を高めるなど、地域の担い手育成を進める。	高齢者の地域活動への参加促進マーケティング
	自主的な取組を進める地域	自主的な取組を進める地域コミュニティに対して、まちづくりアドバイザーを派遣し、それぞれの地域に応じたサポートを行う。	まちづくりアドバイザーによるサポートの充実
	地域団体と市民活動団体	地域団体とNPOをはじめとする市民活動団体が連携して地域の課題解決に取り組めるよう、行政のコーディネートによる連携の仕組みづくり。	地域団体と市民活動団体の更なる連携の仕組みづくり